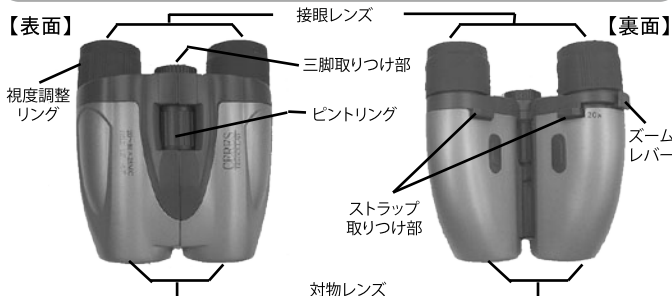


セレス20~80×28MC ズーム双眼鏡

取扱説明書(補足)

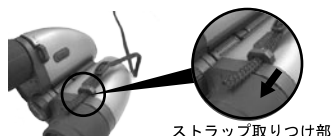
このたびは、ズーム双眼鏡をお買い上げいただき、ありがとうございます。ご使用前には必ず取扱説明書と取扱説明書補足をよくお読みいただき安全に正しくお使いください。また取扱説明書等は必ず大切に保管しておいてください。

各部名称



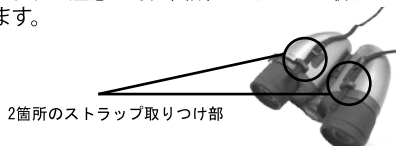
ストラップの取り付け方

1. 双眼鏡の裏側にあるストラップ取り付け部に、ストラップを図のように差し込みます。



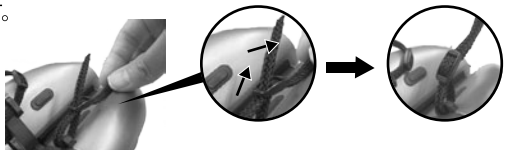
ストラップ取り付け部

2. ストラップが、ねじれないように注意して、2箇所ストラップ取り付け部に同じように差し込みます。

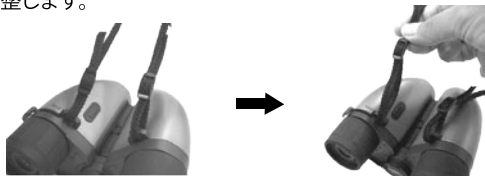


2箇所ストラップ取り付け部

3. 差し込んだストラップの先を、ストラップに通してある黒い留め具に通します。



4. 2箇所とも同じように取り付けます。その後、ストラップの長さをお好みの長さに調整します。



双眼鏡の使い方

1. ストラップを取りつけます。

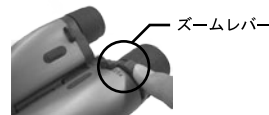
(ストラップの取り付け方を参照) ストラップを首に下げ、胸の少し上あたりに双眼鏡がくるように長さを調整します。



2. ズームレバーを一番倍率の低い方に合わせます。

双眼鏡の裏側にあるズームレバーを20×の方に動かします。

※一般的に高倍率になりますと、視野が狭くなり暗くなるため、目標物が見つけにくくなります。まず、低倍率で目標物を捉え、徐々にズームアップしていきましょう。

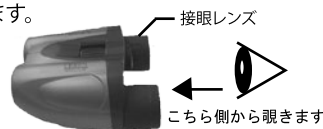


ズームレバー

3. 双眼鏡を覗いてみましょう。

双眼鏡の接眼レンズの側から覗きます。

※反対側から覗くと、像が小さく見えます。必ず接眼レンズ側より覗いてください。



接眼レンズ

こちら側から覗きます

4. アイポイント(双眼鏡を覗いた時、全視野が見える位置)を合わせます。

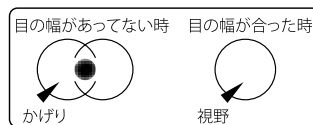
眼鏡をかけてない方は、そのままの状態でお観察することができます。眼鏡をかけている方で、双眼鏡をのぞいた時に全視野を見ることができない場合は、ゴム見口を折り曲げてご使用ください。



ゴム見口

5. 双眼鏡を自分の目の幅に調整します。

両手で双眼鏡本体を持ち、自分の目の幅に合うように左右の筒の結合部をゆっくり折るように動かします。図のように左右の目で見えた視野が1つの円になって見えた時が最適な幅ということになります。



目の幅があってない時 目の幅が合った時

かけり 視野

6. 視度とピントを合わせます。

- ① 看板の文字など1点の目標を決めます。
- ② まず右目を閉じて、左目だけで対象物がはっきり見えるようにピントリングを回します。
- ③ 次に左目を閉じて、右目だけで対象物がはっきり見えるよう視度調整リングを回します。
- ④ 以上で左右の視度の違いが調整され、両眼のピントのずれが解消します。あとは、ピントリングを回すだけで、すぐに焦点を合わせることができます。

7. 構え方

手で持って使用する場合は、脇を締めて両手でしっかり構えます。木立やクイなどを三脚代わりに使用すると手ぶれが少なくなります。必要によってズームを使用してください。高倍率でご利用の場合、手ぶれが大きくなりますので付属の三脚取り付けホルダーを使用し、三脚に取り付けてご利用することをおすすめします。(三脚取り付けホルダーの取り付け方を参照)



脇を締めて両手でしっかり持ちます。

三脚取り付けホルダーの取り付け方



双眼鏡に取り付ける穴(大きい穴)

三脚取り付け穴(小さい穴)

左記の三脚取り付けホルダーを双眼鏡に取り付け、三脚で固定します。

1. 左右の接眼レンズの間にあるキャップを取り外します。左に回すと外れ、右に回すと固定されます。



締める

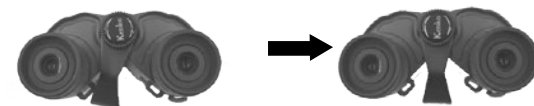
外す

2. 外した部分へ三脚取り付けホルダーをつけます。この際、三脚取り付けホルダーの向きにご注意ください。



ホルダーが内側を向くように取り付ける

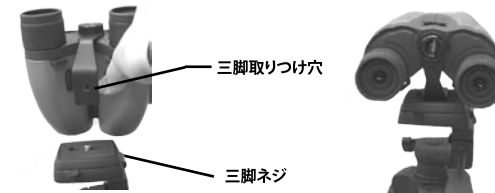
3. 三脚取り付けホルダーがきちんと中央になるように調整しながらキャップを締めます。※キャップの締めが弱いと双眼鏡が外れる恐れがありますのでしっかりと固定してください。



× 左に傾いている

○中央にきちんと調整されている

4. 三脚取り付けホルダーにあっていて、三脚取り付け穴に三脚のネジをねじ込みます。



三脚取り付け穴

三脚ネジ

ご注意

双眼鏡を高倍率にするとレンズの部分に黒い幕がかかったような状態となり、透明なナイロンの紐のようなものが境界の中をすべっていくように見えることがあります。これは、眼球内の組織体が網膜上に投影されて回折現象を起こすことで生じるもので、一般的にエントプティック現象(飛蚊現象)と呼ばれる現象です。双眼鏡の異常ではありませんのでご注意ください。